

風水害



風水害から家族を守る知識と対策。
気象情報をこまめにキャッチしてください。

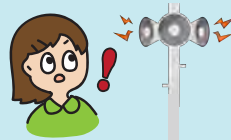
1 台風が接近したらまず家の補強。

補強する場所は、雨戸、窓ガラス、塀、物干、アンテナ、看板など。接近までに時間がある場合は、防水シートや角材等も用意しましょう。また、植木鉢は強風で倒されたり、飛ばされる恐れがあるので1カ所にまとめておくと安全です。



4 大雨・洪水等の注意報と警報について。

大雨による重大な災害（土砂災害や浸水害）、上流域での大雨による河川の増水や氾濫などの重大な災害（洪水害）のおそれがある時は、「大雨警報（土砂災害・浸水害）」や「洪水警報」が発表されます。警報・注意報の発表や、大雨が降ってきたら、キキクル（大雨・洪水警報の危険度分布）で今いる場所の土砂災害や浸水害、洪水害の危険度を確認しましょう。



2 停電や断水に備え、非常品のチェック。

食料、飲料水、懐中電灯、ライター、ラジオ、簡単な医療品は揃えてリュックに入れておきましょう。



5 傾斜地・がけ近くは土砂災害に注意。

大雨や集中豪雨で発生する土砂災害。
①小石がパラパラ落ちる。
②地面にひび割れができる。
③斜面から濁った水が流れ出ている等を見したら注意しましょう。また、避難指示が出たらすぐに避難してください。



3 気象情報に注意する。

台風等の気象情報は、テレビやラジオなどで最新の情報を収集し、市や防災機関の広報等にも注意して聞いておきましょう。インターネットでも最新の情報を見る事ができます。
<https://www.data.jma.go.jp/okinawa/index.html>
(沖縄気象台)



6 台風時の避難について

台風は、暴風や大雨・潮位変動を伴い、様々な種類の災害を引き起こす災害です。状況で避難行動が変わるので、「避難について」のページで事前に確認し、適切な避難行動がとれるよう心がけましょう。
また、自宅等が強固な場合は不要不急の外出を控え、屋内に留まり、避難所へ避難する場合は、開設されている近くの台風等避難所へ避難してください。



地震



慌てず行動することが安全の為の第一歩。
地震直後の津波情報にも耳を傾けてください。

ポイント 1

落ち着いて身の安全を確保する

テーブルや机の下に身を隠すなどして、まずは自分の身を守ってください。



ポイント 6

避難は徒歩で持物は最小限に

非常用品はリュック等に入れて一つにまとめておき、避難するときにはエレベーターや自動車は使用しないようにしましょう。



ポイント 2

あわてず冷静に出火を防ぐ

使用中の火を素早く消しガスの元栓を閉める。もしも火が出たら隣近所に協力を呼びかけ、落ち着いて消火にあたきましょう。



ポイント 7

狭い路地、塀ぎわ、川べりは要注意

狭い路地や塀ぎわでは、塀や自販機の倒壊、瓦の落下など危険が多いので遠ざかりましょう。川べりや崖は崩れる恐れがあるので近づかないようにしましょう。



ポイント 3

窓や戸を開け出口を確保する

建物のゆがみで戸が開かなくなる事があるので、出口の確保は確実にいきましょう。



ポイント 8

山崩れ、崖崩れ、津波に注意

危険のある地域では、身の安全を確保すると共に早めに避難行動しましょう。



ポイント 4

停電後の通電火災を防ぐ

避難で家を空ける時は、電気のプラグを全て抜いておき、通電した際の漏電や倒れた電気ストーブなどによる出火を予防しましょう。



ポイント 9

液状化現象に注意

低地や埋立地等では、泥水化し地盤沈下等が発生する可能性があります。地域の液状化リスクを把握し適切な避難行動につなげましょう。詳しくは「沖縄県地図情報システム」をご確認ください。



ポイント 5

慌てて外に飛び出さない

落下物や建物の倒壊など外には危険がいっぱいです。周囲の状況をよく確かめ落ち着いて行動しましょう。



ポイント 10

正しい情報を基に早めの避難

テレビやラジオ等で正しい情報を把握しみんなで助け合い早めに避難しましょう。



津波



一瞬にして襲いかかる津波から災害を防ぐためには、とにかく避難する以外にありません。

1. 車での避難は控えて

車による避難は渋滞を引き起こし、一刻を争う津波からの避難は危険が伴います。東日本大震災でも、車での避難で渋滞に巻き込まれ、津波で多数の人が命を落としてしまいました。徒歩での避難が困難な方以外は基本的に徒歩で避難しましょう。



2. 「より早く、より高く、より遠く」へ

津波が起こる可能性がある場合は、直ちに高台の方へ避難してください。すでに浸水が始まってしまった場合などは、近くの高いビルなどに逃げ込みましょう。

